



南部地域の特色を活かした農業・農村の振興……

「地域農業の生産振興」と「豊かな農村地域の形成」



南部農業改良普及センターは、沖縄本島南部の4市3町、離島地域の1町6村からなる地域を管轄しております。南部地域においては、地下ダムの建設をはじめ、農地の改良、施設及び農業機械の導入など各種の生産基盤が整備されています。

本島地域では、さとうきび、畜産を安定品目として野菜、果樹、花きなど園芸作物の拠点産地形成が進行しています。また、家畜市場を拠点とし肉用牛の子牛生産が行われています。

離島地域では、南大東島、北大東島のさとうきび専作経営、久米島におけるさとうきびと肉用牛の複合経営が行われています。近海離島地域では、もちきび、水稻など地域特産物の栽培が盛んであります。

一方、南部地域の農業は、農業従事者の高齢化、担い手の育成、環境保全型農業の推進、農地の流動化など解決すべき課題も抱えております。

このような状況を踏まえ、平成21年度は以下の課題を重点に普及活動を展開していきます。

1. 安定的な農業担い手の育成

農業青年クラブ活動の充実強化、新規就農者への技術・経営指導、認定農業者の経営改善及び就農女性の経営参画を支援します。

2. おきなわブランドに向けた産地育成

野菜、花き、果樹、薬用作物など拠点産地の産地協議会の活性化を図りながら、技術・経営改善、新技術の導入など重点的に指導します。

3. 環境と調和した農業生産

エコファーマー農家の土壌分析を実施するとともに、「土づくり技術」「化学肥料低減技術」「化学農業低減技術」を一体的に指導します。

4. 地域資源活用による農村振興

地域にある島野菜など有用農作物の特産品化、地域特産物の開発を支援します。

これらの課題の解決にあたっては、生産農家との信頼関係を構築し、関係機関・団体との連携を図りながら、職員一丸となって取り組んで参ります。今後とも南部農業改良普及センターの事業推進にあたってご支援、ご協力を賜りますようお願い致します。

南部農業改良普及センター 所長 澤岬 幸賢

平成21年度 南部農業改良普及センター活動体制

所長 澤岬幸賢	普及企画班 班長 高良 盛達	地域調整	高良盛達			
		集落営農	崎間賀子	平田雅輝	比嘉良賞	
		担い手	宮尾澄生	神谷シズ子	橘 知行	
		農業経営	座喜味清美	長山麻江		
	庶務	志良堂史	糸数裕子			
	離島駐在	加藤智子(久米島)	新里寿順(南大東)	桐原成元(北大東)		
	地域特産振興班 班長 真栄城悦子	特産物	真栄城悦子	東恩納良徳	根路銘利加	
		作物	平良正彦	安仁屋政竜		
		畜産	伊福正春	本村 琢		
	園芸技術普及班 班長 大城 啓光	野菜	大城啓光	屋宜美智子	大城忍	嘉数耕哉
花卉		神村亜矢子	上地 暢	城間久美子	井上亜紀	
果樹		野原正司	諸見里知絵	石垣盛康		

は転入者



受けてみませんか、土壌の健康診断を！

一 樹づくりは根づくり、根づくりは土づくり、土づくりは生産性向上の第一歩！ 一

1 土づくりの意義について

近年、エコファーマー・特別栽培・GAP（農業生産工程管理）など消費者の安全・安心に対する関心の高まりとともに、環境に配慮した農業がますます求められております。

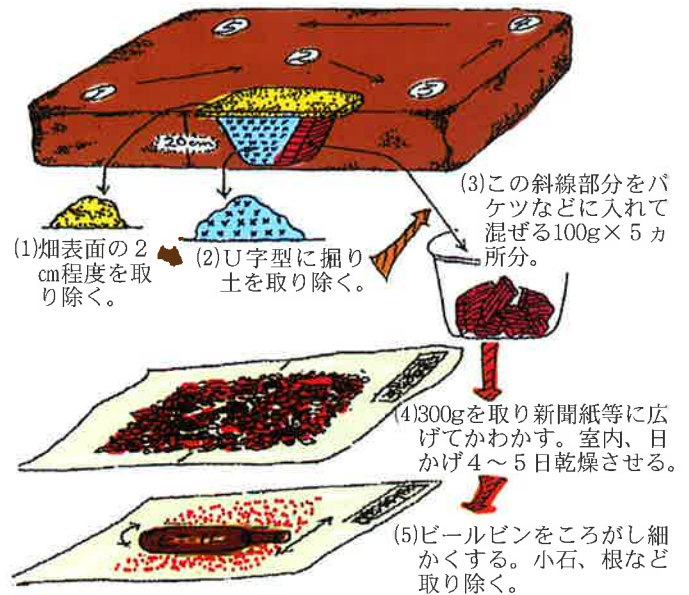
そのためには、作物本来の『基礎体力（樹勢）』による健全な生育が前提であり、畑の健康状態を知ることが、「品質向上・増収」のみでなく「減農薬」等の対策においても重要です。

土壌の健康診断

(収穫後の疲れた体の健康チェック)



- ②土壌を取る深さ：根の多い15～20cm付近
- ③土壌を取る位置： ※圃場ごとに行う
圃場別に圃場内の数ヶ所を偏りなくとって混ぜる
- ④土壌の量：乾燥させ、篩いにかけて土を約100～300g（コップ一杯程度）
- ⑤同圃場内における生育差を確認する場合
土壌養分等にムラがあると思われるので、偏りを確認したい場合は、正常な位置、異常な位置を分けて取り、提出も別々にする



2 分析項目について

以下の8項目について分析します。

【分析項目】	【単位】	【項目の意味】
		【数値から分かること】
土壌酸度 (pH)		肥料の溶け具合を左右 (作物毎の適正値) 土壌中の酸度、養分の吸収に影響する
電気伝導率 (EC)	ms/cm	水に溶けた肥料濃度 多施肥や塩類集積等の目安
陽イオン交換容量 (CEC)	mg/100g	土壌の胃袋の大きさ 保肥力の大小
腐植	mg/100g	土の生産力のもと 土質の改善や微量要素の補給
交換性石灰 (CaO)	mg/100g	交換性陽イオンのカルシウム量 タンパク質合成や細胞壁合成に関与
交換性苦土 (MgO)	mg/100g	交換性陽イオンのマグネシウム量 光合成に関与
交換性加里 (K ₂ O)	mg/100g	交換性陽イオンのカリウム量 作物体内の機能調節に関与
トルオーグリン酸 (P ₂₀₅)	mg/100g	根酸で溶けるリン酸量 生長・エネルギー代謝に関与

3 分析土壌の取り方

①土壌を取るタイミング

作物収穫後におこなうことが基本です

※次期作物の基肥前に（前作収穫後のすき込み耕耘後すぐが最適）土をとるとよいです。

4 土の提出方法

- ①提出期限は分析月日の1週間前までに提出
(地域によって分析月日が異なるので事前に確認)
- ②所定の「土壌サンプル票」に記入のうえ、土と一緒に提出
- ③分析件数に限りがあり、必要最小限の点数を提出
- ④提出窓口は、JA各支店に行い、土壌診断結果も併せてJA各支店（生産部会等）を通して行う。
(JA生産部会員・組合員以外については南部農業改良普及センターにおいても受け付けております)

土壌サンプル表

①【耕作者名】	【住所】	【畑場所】
②土壌の種類 (国頭マージ・ジャーガル・島尻マージ)	【連絡先(TEL)】	
③作物名	【次期作物】	(露地・施設)
④作物生育状況 (良好・悪い)	※樹勢が弱い等記入	
以前 (又は現在) あった土壌の問題などを記入してください		
⑤その他		

(園芸技術普及班 上地)

あなたは、どれだけマンゴーに愛情を注いでますか？

～ 秀品マンゴーの安定生産へ向けて（4月～6月の管理）～

果実肥大期の管理は、果実の品質や翌年の結実に大きく左右します。この時期にマンゴーの樹を^{いたわ}り手間をかけることで、収入に大きく差がでできます。

そこで、果実肥大期（4月～6月）において大切な管理を3つ紹介しますので、ぜひ実践して下さい。

果実肥大期（4月～6月）の大切な管理

1. 灌水をこまめに行う。
2. 着果負担をさせない。
3. 実吊りを徹底する。

1. 灌水をこまめに行う

この時期のマンゴーは、たくさん水を欲しがります。また、肥料成分は水によって土に浸透していくため、灌水を怠ると十分な肥料効果が得られません。

そのため、灌水は常に地面が湿っている状態を保つよう、こまめに行いましょう！



← 灌水をこまめに行うと細根の発達を促します。地際に細根がたくさんあると最高です！自分のマンゴー樹の根がどのように育っているか確認しましょう。

2. 着果負担をさせない

正常果、未受精果、奇形果を早めに見極め、早めの摘果を心がけましょう。遅くとも卵大ぐらいの大きさまでに、基本的に1つの枝につき1個に絞りましょう。

果実を残しすぎると、樹がとても疲れるため、収穫後、葉の黄化や枝先から枯れていく症状が見られます。樹勢が回復しないと翌年の花の咲きが悪くなるので、樹を^{いたわ}るためにも早期摘果に努めて下さい。



果実のつけすぎ注意!!!



灌水不足や着果負担で、樹がとても疲れます。収穫後写真の様な症状がでたら来年はもっと樹を^{いたわ}りましょう！

3. 実吊りを徹底する

果実の色のりを良くするためには、果実に十分に太陽の光を当てる必要があります。そのためには、果実は樹の上にきちんと吊り上げることが大切です。

果実の肥大が進むと、果実の重みで吊り棚の線が緩み、果実の吊り位置が下がって葉に隠れてしまうことがあります。袋がけ前まで果皮の着色が良くても、果実肥大期後半に果実が葉陰に隠れると着色が悪くなりますので、果実に光が当たるように、こまめに吊り位置を調整しましょう。



← 実吊りは、果実が葉陰に隠れないように、樹の上に吊り上げること



果実に光が当たるように玉吊りするには、

- ①吊り棚の線をたるまないように張る。
- ②枝先の高さを低く、均一になるように誘引する。
- ③花穂に光が当たるように、花穂を立てて花吊りする。

この3つの事前作業がとても大切です。



収穫まで果実を太陽の光に当てるようにしましょう



← 果実の肥大が進んで吊り位置が下がり、果実が葉陰に隠れたら、吊り上げて調整する。新芽が生長し、果実を覆う場合は誘引すること。

真っ赤で美しい美味しいマンゴーを毎年安定して作れるように、マンゴーにたくさんの愛情を込めて、こまめに丁寧な管理を心がけましょう！

平成21年度 南部地区「さとうきびまつり」

毎年、4月の第4日曜日は「さとうきびの日」です！

「さとうきびは沖縄の宝！ 黒糖づくりを楽しもう！」をテーマに4月26日（日）、南部農業改良普及センターと南部地区さとうきび生産振興対策協議会の共催によるさとうきびの日関連行事として、南部地区「さとうきびまつり」が翔南製糖株式会社において実施されました。



まつりの目的は、南部地区で最も多く栽培されているさとうきびの重要性を広く地域住民へPRし、また農家へ肥培管理の徹底を呼びかけ、生産農家と関係機関が連携を深め増産運動に取り組むとともに新たな経営安定対策制度に対応していくことです。

まつりは、午前9時半から始まり、黒糖づくり競争には糸満市、玉城、具志頭、南風原町、津嘉山、大里、佐敷の七つのさとうきび生産組合が参加し係員の合図で一斉に窯に火入れがされました。



黒糖づくりが進行している中、11時からまつりの式典が開催され農家や関係者約200人が参加しました。主催者側から、南部地区さとうきび協議会の中村会長は、「去年の豊作は天気が良かったことも

ありますが、農家の皆さんと関係者の人的努力によるものが良かったと思います。来年から始まる新制度についても、皆が認められるような体制作りをしていきましょう」、南部農業改良普及センターの澤岬所長は、「このまつりを通して、生産農家や関係者が一層元気になって、今後もさとうきびを沖縄の宝として守り育てていきましょう」とそれぞれ挨拶をしました。

中村会長の合図で7台の広報車が出発し、南部の全市町を巡回し、さとうきびの日のPRと肥培管理の徹底を推奨しました。



会場には、農業機械、肥料、農薬、堆肥の展示、経営安定対策制度相談コーナーがあり、農家や訪れた人々の関心を引きました。



最後に黒糖づくりの審査発表があり、2時間半の制限時間内で、できあがった黒糖を5人の審査員が味、色、香りで評価した結果、初の栄冠に佐敷地区さとうきび生産組合が輝きました。2位、大里さとうきび生産組合、3位、玉城さとうきび生産組合の順でした。

(地域特産振興班 平良)

農業体験
農家レストラン
農家民宿

～グリーン・ツーリズム実践へ向けに～



- 農業体験はとうやるの？
- 農家民宿をやりたいけど手続きはとうあるの？
- 生産物をPRしたいな
- 定年帰農でスローライフを实践したいなあ…

と**思っている**
農業者へ

近年、都市と農村の交流活動として、農業体験や農家レストランなどを実践する農業者が、南部管内でも増えてきました。その背景には、農山漁村側と都市側の双方のとりまく環境があげられます。(下表参照)

南部管内では、「なんぶグリーン・ツーリズム研究会」が平成17年に結成され、27人の農漁業者が学びあいながら活動を続けています。

当普及センターでは、先述の研究会を中心に、グリーン・ツーリズムを实践したい方を支援しています。農業体験・農家民宿・農家レストラン等を始めてみたいなあ、どうやったらできるのかなあ…？とお悩みの農業者は、まずは、当普及センターへお気軽にご相談下さい。グリーン・ツーリズムの基礎的なことから仲間と共に学んでみませんか？

実践事例→
ハーブ収穫体験



←実践事例
酪農乳搾り体験

■グリーン・ツーリズム成功への要素

グリーン・ツーリズムの成功には、5つの要素があると言われています。

それは「遊び・景観・宿泊・直売・飲食」各要素には、やはり、人と人との交流、地域との連携協力が大切です。

まずは夢プランから作成！

行動あるのみ、一步二歩・・・前へ進もう！

意欲のある農業者お待ちしています！

(地域特産振興班 根路銘)

向かい風

- 自給率の低下
- 輸入農産物の増加
- 過疎化の進行
- 高齢化の深刻化 等



グリーン・ツーリズム

追い風

- 新鮮、安全な農産物への期待
- 肉体的、精神的リフレッシュ
- 自然の中で学習
- 個性的な文化体験 等



〈手段〉

農家民宿 直売所 市民農園
農林漁業体験 生活文化体験等

さらに…
関連法制度の規制緩和

品種選抜によるさとうきびの安定生産に向けた地域の取り組み

南大東村では、さとうきび増産プロジェクト会議を立ち上げ、品種構成、干ばつ問題、病害虫、雑草問題の対策等により安定生産、増産に向けたさまざまな取り組みを行っています。その中でも、品種選抜については、大東糖業、さとうきび生産法人アグリサポートが中心となり県農業研究センターと連携して一歩踏み込んだ調査が行われています。

南大東村においては、約30年間F161が栽培されてきています。これまで当村に有望品種として数種の品種が導入されてきたが、品種選抜試験が行われた地域との土壌、気象条件、機械化による栽培体系の違い等で、適応力が低く思うような成績が上げられなかった事が、F161が栽培され続けている要因ではないかと考えられます。

しかしながら、当村の品種選抜試験ほ場における生育状況、品質の成績が良好で昨年品種登録にいたったNi26、また、今年度は品種登録候補として有望な2系統が選抜されてきています。F161は現在普及している他の品種と比較し、糖度が上がるのが遅いという欠点を持っているため、早期高糖系のNi26や前期の有望系統への代替えが検討されています。これら有望系統にも欠点がありますが、品種選抜試験を当村で行っている事から、これまでの導入されてきた品種とは違い、継続して栽培される可能性は高くなっていると言えます。

また、さらに踏み込んだ取り組みとして、農業研究センターと連携し、当村での実生苗からの品種選

抜を行っています。もちろん品種の交配や、実生苗の生産は農業研究センターで行われていますが、宮古や八重山とは違い、農業研究センターが無い当村で実生苗の植え付け、選抜への取り組みが行われるのは、地元の協力が無ければ困難だと言えます。実生苗からの品種選抜にはかなり時間を要しますが、この取り組みが継続できればF161以上に農家に愛される品種が、南大東のほ場から選抜されるのもそう遠くないかもしれません。

今後は、品種選抜ほ場の担当者の退職も控え、大東糖業、アグリサポートがこれまでと同様の取り組みを継続できるか、村役場、農協がこれまで以上に連携を図った取り組みを行っていきけるかが課題となってくると思われますが、さとうきび生産に支えられる島の村役場、製糖工場、農協の今後の取り組みに期待が持たれます。



実生苗からの品種選抜試験ほ場



各品種栽培実証展示ほ場



(南大東駐在 新里)

定期総会の開催 ～次世代の生産者が集う！～

～南部地区青年農業者育成確保対策協議会～

4月23日（木）午後1時半よりJAおきなわ南風原支店の2階ホールにて、平成21年度南部地区青年農業者育成確保対策協議会定期総会が開催されました。

当日は、約20名の会員が集まる中、平成20年度の活動実績報告、収支決算報告と平成21年度の活動計画案、収支予算案及び新役員が承認されました。

平成21年度も引き続き青年農業者の育成及び確保の基本方針と対策を協議していくと共に若者が農業に魅力を持てる環境づくりを推進していきます。



新会長あいさつ

～南部地区農業青年クラブ連絡協議会～

4月23日（木）午後3時半よりJAおきなわ南風原支店の2階ホールにて、平成20年度南部地区農業青年クラブ連絡協議会定期総会が開催されました。

当日は、約18名のクラブ員が集まる中、平成20年度の活動実績報告、収支決算報告と平成21年度の活動計画案、収支予算案、規約改正案及び新役員が承認されました。

南部地区農業士会の新会長 普天間春行氏の激励あいさつに続き、新会長が、平成21年度は、消費者や農業士の先輩方との交流を一段と増やし、意欲的に取り組みたいと力強くあいさつしました。



来賓激励あいさつ

新会長あいさつ

（普及企画班 橋）

～南部地区農漁村女性組織連絡協議会～

南部地区農漁村女性組織連絡協議会の定期総会及び学習会が、4月22日（水）午後2時よりJA大里支店のアトール2階ホールで開催されました。

当日は約85名の会員が集まる中、平成21年度の活動計画、予算案及び新役員等が承認された。また、活動目標①女性自身の意識改革と方針決定の場への参加促進、②農漁業女性組織活動の交流とネットワークづくり」のスローガンが採択されました。

総会終了後は、農漁村女性の資質向上を図る目的で、「たまぐすく花野果村」代表の大城浩明氏を講師に「直売所活動を通し農漁村女性組織に期待すること」と題して学習会を開催しました。



会長あいさつ

講師 大城浩明氏

～南部地区農業士会～

南部地区農業士会定期総会並びに南部地区リーダー研修会が4月23日（木）、午後2時30分より、JAおきなわ南風原支店において開催されました。

当日は、会員等約35名が出席して平成21年度の活動計画案、予算案及び新役員等が承認されました。

来賓の澤岨幸賢所長から「新規就農者の研修受入、地域リーダーとしての就農支援等今後の活動に期待する」との激励の挨拶がありました。

また、総会終了後リーダー研修会が開催され、講師には指導農業士の熱田守氏（南城市）、宮平聰氏（南城市）の両氏から我が家の経営状況について素晴らしい事例報告がありました。



会長あいさつ

リーダー研修会

（普及企画班 神谷）

平成21年度 南部地区各組織の新役員決まる!!

○南部地区農業士会

会 長：普天間春行（南城市）
副 会 長：長嶺 幸雄（豊見城市）
書記会計：富名腰須賀江（南城市）
理 事：熱田 守（南城市）
理 事：伊敷 幸一（南城市）

○南部地区農漁村女性組織連絡協議会

会 長：比嘉 キヨ子（南城市）
農漁村生活研究会
副 会 長：知念 恵美子（八重瀬町）
J A女性部
副 会 長：伊禮 貴代美（糸満市）
たばこ耕作組合 南部地区女性部
会 計：仲里 秀子（南城市）
農漁村生活研究会

○南部地区青年農業者育成確保対策協議会

会 長：澤岬 幸賢
（南部農業改良普及センター所長）
副会長：山城 孝榮
（糸満市農政課長）
副会長：松本 靖
（JAおきなわ南部地区営農振興センター長）

○南部地区農業青年クラブ連絡協議会

会 長：砂川 均（南城市）
副 会 長：長嶺 哲也（豊見城市）
事務局長：三上 大輔（八重瀬町）

南部地区の担い手、育成支援の
新役員の皆さん今年度も頑張ってください。



フレッシュマン紹介



皆様はじめまして。昨年11月に採用され4月から南部農業改良普及センターで働かせていただくことになりました、平田雅輝と申します。11月から3月までは営農支援課にて勤務しておりました。

大学は県外でしたが、出身は浦添市です。ふるさとである沖縄県で、農業分野に携わりながら働けることを心から幸せに感じております。

実際に業務に就いてみると、わからないことばかりで戸惑うことも多々ありますが、そのたびに上司や先輩など周囲の方々に助けられ、自分は本当に幸せ者だと感じる毎日です。

まだまだ勉強不足ですが、いつかは自分が助ける立場になれるように一生懸命がんばってまいりますので、これからもよろしくお願ひいたします。

（普及企画班 平田雅輝）



はじめまして。

この度、南部農業改良普及センター（普及企画班）で担い手を担当します橘知行です。

出身は、愛媛県松山市ですが、沖縄に来て早や10年目を迎えます。

新採用で園芸振興課野菜花き班を3年間、次に八重山支庁農林水産整備課漁港水産班を3年間勉強してきましたが、普及センターの現場は初めてとなります。

これから共に活動する新規就農者や農業青年が、5年後、10年後にイキイキとした生産者となれるよう、経験とつながりを活かしながら、引き続き職務の幅を広げていきます。

今後、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。

（普及企画班 橘知行）